

第4回 みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会 議事録

○日 時 令和8年7月15日（水） 午後7時00分～午後8時45分

○場 所 大間々庁舎 3階 大会議室

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会委員】13名

委員長	田口 和人
副委員長	備海 忍
委員	新井 博介
委員	大江 潤一
委員	鈴木 義雄
委員	河内 良範
委員	今井 俊彦
委員	富所 哲平
委員	小林 正和
委員	松島 千里
委員	植木 文貴
委員	竇木 政則
委員	林 剛史

【みどり市教育委員会】 8名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	鈴木 早苗
教育総務課	課長	岡 研太郎
学校教育課	課長	森田 修
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
教育総務課総務係	主幹	金高 吉宏
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 4名

○議事の概要

1 開会〔開始：午後7時00分〕

2 委嘱状交付

- ・保志教育長から辞退委員の後任者へ委嘱状を交付

3 委員長あいさつ

4 報告事項

（1）地区別検討委員会経過報告

- ・事務局より令和7年度の笠懸地区と東地区の検討委員会について経過報告。

＜笠懸地区検討委員会について＞

○令和7年度中に委員会を3回開催。先日第4回検討委員会を開催。

○適正規模・適正配置については、次の2点が委員会の方向性として示された。

- ①児童の教育環境、児童数の推移、人口増、避難所等の観点から、4校を維持していく。
- ②4校を維持していく場合、学校配置については教育委員会の基本方針のように笠懸小を南へ移転する。

○給食提供方式については、児童や保護者の受け止め、クオリティ、財政面からもセンター方式の方向でよいのではないかという意見がある一方で、自校給食を推す保護者や地域住民がいるのも事実なので、そういった方々にセンター方式を理解し納得してもらう必要があるのではないかという意見もあったため協議を継続。

○少子化に対応した魅力ある学校づくりについても協議を継続。

＜東地区検討委員会について＞

○委員会を3回開催。

○適正規模・適正配置については、あずま小中学校を存続。

○少子化に対応した魅力ある学校づくりについては、個別最適な学びを通じた個を伸ばす教育を実践し、情報化・国際化・多様化に主体的に対応できる児童生徒を育成していく。

○東地区では、保育園と小中学校の一貫教育校の立ち上げ準備をしているため、保小中一貫教育についても協議。保小中一貫教育については、他ではできない特色ある教育として、明確なビジョンをもって推進していく。

○給食提供方式については、センター方式が望ましい。

○第4回委員会で答申案をもとに検討を行い、第5回委員会で答申という流れを予定。

5 協議事項

（1）大間々町における学校適正規模・適正配置について

- ・前回の協議内容〈協議①〉〈協議②〉について、【資料1】に基づき、委員長から説明。
- ・【資料2】【資料3】【資料5】について、事務局より説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
議長（委員長）	この委員会は、大間々地区の適正規模・適正配置を検討することを目的に設置された委員会になります。東地区も笠懸地区もあります。その3つになる前はみどり市全体の委員会があつて、現在の地区別検討委員会を行っているという流れで進めてきています。大間々地区の適正規模・適正配置について、大間々の現状を踏まえながら、そして今出された資料を踏まえながら、どんな形にしていけばいいのか、皆さんの率直な意見をお願いしたいと思います。「これではダメ」「こうした方がいい」といったことを大間々地区のところでご意見をお願いしたいと思います。 1つは基本方針に示されたものがあります。たたき台ではありますが、今の大南小のところに中学校を設けて、大北小と大南小を1校にするという考え方があります。それがいいかどうかということも含めてご意見をお願いしたいと思います。
委員 1	私は市全体の適正化の委員会から一貫して言っていますが、もう大間々町には1つの中学校しかないと思っています。大間々町の活性化を考えると、魅力ある中学校を中心街に造れば、大間々町に人口の流入もあるだろうし、町も活性化するのではないかと考えています。財源を無視していいのであれば、大間々の中心街に1校、魅力ある新設校を造ってはどうか。大間々中や大間々東中の現状を見ると、部活動のことや学力のことも含めて中学校は1つ大間々にあるべきだと思います。大間々は公民館もないですから、中心街に大間々の魅力を集めた公民館機能をもった学校ができるとよいのではないかと。そして体育館についても、笠懸にはあるけど大間々にはないですし、中学校も雨漏りがひどいです。それを考えると、社会体育館で地域の人が使えるような体育館、地域の人が見えるような中学校、公民館機能をもつような複合的な魅力ある中学校を造ることが喫緊の課題ではないかと。それによって小学校の児童も増えてくるかどうかはわかってくると思うので、まずは魅力ある中学校、地域を巻き込んだ生涯学習的な機能もあるような中学校を造っていただきたいということが願いです。
議長（委員長）	率直な、そして広がりがあるようなご意見をいただきました。他はどうでしょうか。今のようなご意見をぜひお願いします。
委員 2	僕も委員1さんと一緒に、みどり市全体の検討委員会から一貫して言っていますが、人口減少の対処療法で学校の合併や統合を考えていくのはすごくナンセンスだと思います。学校を造ることで、起死回生の一手じゃないですけど、地域づくりのリデザインのようなことを答申に入れて、柔軟な選択肢の幅を持った状態で答申として出して、自由な選択肢の中から選んでいただきたいと思います。藤岡市だったか富岡市だったか分かりませんが、学びの多様化学校といった学校があったかと思います。日本の未来を危惧した人たちが、いろいろな選択肢を出してきていると思います。人口減少に対処療法でどこどこをくっつけてのようパイの奪い合いでこの適正規模・適正配置を考えると

	んでもない地獄に入っていくと思います。
委員 3	今の 2 人の意見に賛成です。魅力ある学校についての議論はしていませんよね。統合とかどこに造るという話ばかりで。そもそも学校とは何か。どういう学校にするという学校像がないところでただ統合等の話ばかりしてきたと思います。
議長（委員長）	どうでしょうか。今のような議論をぜひこの委員会で行いたいと思います。
副議長（副委員長）	今中学校の話が出ましたが、私も昨年度まで大間々東中の PTA 会長ということで 3 年間子どもたちの環境を見てきました。子どもたちの環境が年々寂しくなっていて大変な状況になってきていることは感じながらも、先生方もいろいろと考えてくださって、今の環境でやれることをがんばるということでもやっていますけれど、やはり行き着くところは「子どもたちが少なくて…」というところでした。単純に子どもが増えればよいというわけではないと思いますが、やはり子どもたちの成長のためには、より大きな集団で生きていける、勉強していける、そんな環境が望ましいのだろうなとこの 3 年間感じていました。子どもたちは今の環境に慣れるでしょうけど、大人側から見ると、もう少しいろいろな環境でいろいろなことをやらせてあげたいなと考えながら過ごしてきた 3 年間でした。
議長（委員長）	そういうような経験されたことも踏まえて展望を議論したいと思います。
委員 3	この委員会はいつまで、あと何回やるのですか。
議長（委員長）	リミットはありません。答申を出すということが目的になります。昨年度の流れを参考にしますと、最低 3 回は行えるということになります。
委員 3	今回だけではないのですね。今回が最後だと思っていました。ということであればやはり、学校とは何なのか、魅力ある学校とは何なのか、子どもたちが大きな夢を描ける学校とはどのようなものか、学校像を議論する場が 1 回はほしいですね。何を指すのか。
議長（委員長）	今日をその会議にさせていただいて構いません。先ほど委員 2 さんも言っていました、希望などもざっくばらんに出していただいていたと思います。
委員 2	みどり市はコミュニティスクールを掲げていますよね。僕はアフリカの教育の格言で、「教育とは 100 人の大人の背中を見せることだ」という好きな格言があります。大人の背中にはいい背中もあればとんでもない悪い背中もあって、いい背中を参考にすればよくて、悪い背中はこうならないようにしようとするのが教育だと思います。なので、学校の先生の 1 つの背中だけではなく、地域のいろいろな背中を教育の中で見られるようになれば、子どもたちも選べるようになると思います。そう考えると、より地域の皆さんと関われるコミュニティスクールというものが軸に置かれるといいのではないかと思います。以前コミュニティスクールを考える会のようなものが PAL でありましたが、いろいろな人に目指す子どもの未来像、どんな力を育んだらいいかというところで、「○○力」という表現で皆さんから意見を募ったら、1 人も「学力」とは挙げなかったです。「思いやる力」等を育みたいという意見が多かったので、学習指導要

	領を無視するとまでは言いませんが、社会教育的な部分もやっていけるような柔軟な未来ある中学校のようなものを描けたらいいと思います。
議長（委員長）	コミュニティスクール機能というものは全国的にありますけれど、私が調べたところでは形骸化しているところもあるようですが、そこを軸にして地域と学校がつながって子どもを育てていくイメージですね。
委員 3	コミュニティスクールのイメージがおそらく皆さんで合っていないと思います。できれば定義付けてもらいたいのですが。
議長（委員長）	学校運営について地域の方にも参加してもらって協議する学校運営協議会というものを行っています。「評議会」ではなく「協議会」です。そこでは、学校側の教育課程や教育計画等が出されて、もっとこのようにしてほしい、こんなことを入れ込んだらいいのではないかな等、運営協議会のメンバーで議論していきます。そのようにして学校をつくっていくイメージです。だから、地域から出されたご意見がどのように議論され、どのように反映されて形になっていくのかということは、その運営協議会の力量になってくるとい部分があります。皆さんの中に学校運営協議会のメンバーになっている方がいらっしゃるのではないですか。
委員 2	僕もやっています。
委員 3	学校と地域の連携ですよ。そのもっと前をたどると、吉野勉さんが群馬県教育委員会の教育長だったころ、学校と地域と家庭の在り方検討会ということをやりました。本来はこの3つだと思います。今は家庭が入っておらず学校と地域だけの連携になっているけれども、学校と地域と家庭の連携をやらなければいけないと思います。みどり市の教育委員会はあまり熱心でないところです。東毛地区で研修会があったのですが、みどり市の参加率は非常に悪いです。1回目は笠懸公民館でやったけれども誰も来ていない。私1人でした。もう1人民生委員がいたかな。おかしいんじゃないかと言ったら1人2人増えた。学校運営協議会に行くと地域連携コーディネーターという人が座っていて、何をやるんだろうと思っていたら自己紹介もない。会議の最後には講評みたいなことを言い出して、校長先生の校長先生のような立場のように感じました。分かってないなと思いました。そもそも教育委員会の中でコーディネーターを選任するのであれば、どんなことをどのようにやるのか形を示して、学校の先生や我々地域の者等と議論して、こうだよなという意識合わせをしてもらいたい。教育長さんもいるのでぜひそういうところも一生懸命やってほしいと思います。ちなみに館林市はもう何年も前からやっていて、みどり市は一番遅れているくらいです。
議長（委員長）	今お話がありましたように、コミュニティスクールの軸は運営協議会でどんな議論をするのかということにあります。なかには、どうしても学校が主体になって、そうですかと進んでしまう運営協議会もあります。これが形骸化ですよ。みどり市でその問題を考えているのは東地区です。東地区は配置・規模の議論はありませんので、今あるあずま小中学校をより魅力的にしていくに

	はどうしたらいいかというところに議論が集中しました。そして、いろいろな意見が出される中で、学校運営協議会という場を軸にしながら議論していくということになりました。ですから、学校長が出した意見をただ実施したり追認したりするのではなく、運営協議会の委員の皆さんからの意見を積極的に入れてもらいながら魅力ある学校を目指していきます。面積はあれだけ広い東地区において学校は1つだけですから、どのような学校にしていくのかについての検討を運営協議会でやっていくのが東地区のやり方です。その考え方は大間々においてもあり得ると思います。ただ、東地区と違うところは、規模や配置の問題を抱えているということです。この問題は運営協議会に投げるのではなく、この委員会でご意見を出していただきたいと思います。今日のところはあまり整っていないランダムでもいいと思っています。そのようなご意見をお願いしたいと思います。
委員 2	今までの議論を入れると、コミュニティスクールが形骸化せずに地域の皆さんが参画していい意見も悪い意見も全部拾った上で理想の学校をつくり、自分たちの年金を支えてくれる優秀な人材をここからつくっていくんだというものにするためには、やはり地域の真ん中に学校があった方が利便性はいいと思います。集まりやすい位置。それが、今回の適正規模・適正配置でいうと、委員1さんがおっしゃっていたようにできるだけ皆が通いやすいような中心地、シンボルのような、この庁舎の位置のあたりであるといいと思います。学校ってそういう場所に造られると思いますが、皆のコミュニティの真ん中にあるようなイメージがあると、自然と、動線的に皆が参画しやすくなると思います。例えば役所の機能が入っていたりコンビニやスーパーが入っているように組み立ててしまえば行きたくなくても学校に行かなければならないというようになると、より地域の交流が起こったりするかなと思います。
委員 1	私も委員2さんの意見に賛成です。もう大間々の過疎化は分かっているので、逆に過疎化を利用して大間々の中心に本当に魅力のある学校を造るんですよ。住民が入っているコミュニティスクールの大間々中です。だから生涯学習機能もあるし、市民課の窓口があってもいいと思うし、社会体育館も機能して地域の皆さんが大間々に限らず笠懸や東の人も使えるようにしたいと思います。私は合併前に教育委員会にいました。そのときは課長補佐でした。私の方向性は、笠懸には中央に公民館があるから、大間々は合併するときに生涯学習センターを造るんだという構想が基盤にありました。ところが私が辞めたらその方向性がなくなってしまい、大間々は厚生会館を使えばいいということになりました。やはり大間々にも中核となるような施設があるべきだと思います。学校機能と生涯学習機能を盛り込んだような、あるいは行政機能を盛り込んだようなそんな魅力ある設計を考えて、地域住民の意見を聞きながら進めていくと、魅力ある町づくりの中心になっていくのではないかと思います。それを売りにすれば、自然と小学校の児童数も増えていくのではないかと思います。ただ、これにはすごい財源が伴うのでわがままな意見なんですけど、笠懸の南に

	小学校を造る財源があるなら、まずは大間々中を造ってからでいいのではないかと思います。
委員 3	私はあまり大それた考えではありませんが、私が子どもの頃は小学校、中学校って放課後遊んでいました。一種の遊園地だったのです。学校で遊んでいれば親たちは安心で、暗くなってお腹が減ったら帰ってくる、そういう時代でした。理想的だったと思います。運動会になると親や親戚、村の人たちが皆集まってきて、弁当を広げていました。学校が交流の場だったのです。それがいつの間にか池田小学校の事件や殺人事件があって学校は危険な場所だということになってしまった。本当にそうなのか。あのような事件があったとしても学校は一番安全なところだと思います。あのような突発的な事件が起こってしまいましたけれど、先ほど生涯学習という話がありましたが、大間々には山田会館という大きな公民館がありました。山田郡の会館が。群馬県でいえば群馬会館のような。大間々が山田郡の中心だったので山田会館というものがありました。その後釜として厚生会館ができました。厚生会館という名前が付いたものだから公民館ではないと思っているかもしれませんが、厚生省からの予算で造ったからその名が付いたのであって、厚生会館は山田会館の後継であり、公民館なんです。その時代時代の人たちが都合よく解釈して歴史が忘れられてしまいます。そして今度は教育委員会の教育長さんが大間々の街中の公民館を川向こうの田舎に持って行ってしまいました。さらに街中の公民館である厚生会館が使いにくくなるようエアコンが壊れても補修してくれません。そういうことをやっているから教育委員会は信用をなくしてしまうのです。そういうことで、元々学校は安全なところで交流の場であったのに、それがいつの間にかおかしい方向に行ってしまうように思います。それともう1つ。今、学校運営協議会になりましたけれど、その前は学校評議員会でした。私は小学校、中学校、大間々高校の評議員で会議に出ましたが、3校とも評議員会で意見を言うと「何を言っているんだ」とにらまれました。誰も発言しないんです。学校によっては授業参観で回っていくと寝てしまっている子が3人くらいいました。それでもPTAのママたちは「よくやってらっしゃいます。ありがとうございます」と言っていました。私はおかしいと思い「こういう子がいましたよ」と校長先生に言うと、びっくりしていました。今の南小の校長先生は非常に親しくしてくれてざっくばらんに対等に話ができています。地域の評議員は学校の味方であって、日頃からざっくばらんにやれなければいざ問題があったときに何もできませんよねという話をしています。今では本当に冗談を言いながらやっています。やはりそこが原点だと思います。評議員会でさえざっくばらんに話ができない。それでは学校と地域がうまく連携できるはずがないと思います。自慢に聞こえては困りますが、私の行政区には620世帯いて、こんな小さいところですが文化祭をしています。文化祭には小学校、中学校、高校が参加しています。まさに学校と地域が連携しています。学校の先生はいつも喜んでくれています。こういうことが1つの例だと思います。

議長（委員長）	委員 4 さん、皆さんのご意見を聞きながら何かご発言いただけますか。
委員 4	うちの小学校も去年から運動会前の草むしりを地域の区長さんをお願いして各区 3 人出してもらってやり始めました。そうしたら、運動会は前の年よりも来る人が多かったです。話を聞いてみると、1 時から集まって 1 時半から始めましょうという感じで好き勝手始めるんですけど、それはそれでやってくれるのでこちらはありがたいと思っています。除草剤まいても雨が降って草むしりができないという中で地域の人協力してやってくれるのはすごくありがたい、実際に児童たちも自分の地域の知っている人たちが来て学校で何かを手伝ってくれているというのはすごくうれしかったと思います。ただそこで、学校批判ではないですけど、学校側からすると地域の人が来ることによる抵抗があるみたいで、前の校長先生は意外にそういうことが嫌でやらせてくれなかったんです。今の校長先生は逆にどんどんやりましょうとやらせてくれます。だから、保護者が子どものために地域を巻き込んでやろうという考えに対して、学校側の長になる人がもう少し柔軟い考えをもっていたくと、こちらもうりやすいのかなと思います。実際、12 月に保護者と児童を巻き込んだ学校の 1 つの行事をします。そのときに PTA の本部から出た話は、「地域の人呼びましょう」「せっかくなんだからみんなで行きましょう」ということでした。こういった意見が出始めたので、もしかしたらこの先大北小としたら、地域を巻き込む行事の 1 つになって、児童と保護者と地域の方が一体となって学校運営を盛り上げていく形の一步になるのかなと思っています。実際、うちの小学校ではながめ余興場を使って何かやりましょうという企画を毎年考えています。55 周年の時に落語家の桂宮治さんと呼んで落語をやりました。地域の方にも来ていただきました。今年も落語で英語を学ぼうということで、落語家と呼んで英語で落語をやっていただきます。それと、ながめ余興場の大衆演芸、地域の歴史的な建物を使って昔の演芸を見ようという企画も考えています。それに関しても保護者から「地域の人を呼んでください」という意見が出始めているので、これも何年かやるともしかしたらたくさん人が入るのかなという企画を進めています。入り口が草むしりでしたが、結果的にそれが広がったということなので、やっていてよかったと感じています。
議長（委員長）	今のお話の中で、ながめ余興場を使った英語落語がありましたが、そういったアイデアを実現化させるための場はどのようになっていますか。
委員 4	PTA の本部役員会議で、私今会長なので、「これやりたいんだけど皆さんどうですか。意見をください」ということに対して、「呼んでください。やりましょう」ということになって、「じゃあ何を見たい？落語？古典芸能を呼ぶならどんな種類を呼びたい？」という話をして、本部から出た話を今度は実行委員会に投げます。そこで賛成をいただいたら今度は保護者全員に投げかけて、「やりましょう」ということで学校と協議してやることになりました。
議長（委員長）	学校と協議するときは、誰としますか。
委員 4	校長先生、教頭先生、PTA 本部役員担当の先生と本部役員でそういう話をし

	て、校長先生からは職員会議にかけていただいて、この日なら行けますという日を挙げてもらいます。そして、遊びではなく学びの一環ということで、今回は国語の授業の延長線上のという形で進めました。
議長（委員長）	今 PTA と学校の連携の形でしたが、そういう話が運営協議会のところで継続的に検討されながらやる形が出てくるといいですね。委員 5 さん、いかがですか。
委員 5	私は今育成会に関わっていて育成会の会長 3 年目になります。その中で直近だと 8 月 1, 2, 3 日の大間々祭りがあります。区の中では世帯数も少なくなっているの子どもも少なくなっています。その中でお祭り等に参加してもらうにはどうしていくべきかというところは、そこまで動けてはいませんが、考えている部分はあります。私の一番下の子は保育園の年中なので、育成会としてはまだ向こう 10 年先を見なければいけないのですが、10 年後の育成会の活動が正直見えないなと思っています。今も少ない人数で育成会を続けていく中で、やめるのは簡単かなと思っていますが、今の活動を続けていくのにどのように負担を減らしながら今の形を守っていけるかというところは皆で話をしながらやっている最中です。ただその際に、育成会だけの力ではできないことがあるので、そこを今区長さんや評議員の方の力を借りながら、この 1 年 2 年少しずつやり方を変えているところです。自分たちを変えたいといったときには周りの力を借りると思いますし、学校も同じだと思います。私も学校運営協議会に参加させていただいて、そこには各区の区長さんや民生委員の方等がいます。私たちは委員として学校の行事等に参加していますが、保護者の方や地域の方が参加できるような行事等を企画するのも大事だと思いました。委員 4 さんの話もそうでしたけど、草むしりが入り口になってそこから話が広がっていくという部分もあるので、いろいろと考えていかなければいけないなと思います。
議長（委員長）	委員 6 さん、幼稚園の立場からいかがでしょうか。委員 1 さんからは非常にダイナミックな展望もありましたけれど、そういうご意見を聞きながら何かお話をいただけますか。
委員 6	一保護者として大間々地区に住んでいて思うことは、子どもたちが安心して生活できて暮らせる地域って何かなと思ったときに、学校の周辺であれば安心して見ていられるかなと思います。ただ、地域で何かしたいとなったときには、大間々はとても広いので、なかなか子どもを 1 人で出させてあげられないという悩みが出てきます。先ほど委員 1 さんからもあったように、ライフラインとか人口分布的にも丁度中心部、地図でいうと大南小の付近になるのかなと思いますが、そういうところに 1 つ地域の活性化になるような、例えば大南小の跡地で地域住民のコミュニティだったり貸店舗のような形で民間の人に貸し出して運営してもらったり、塾や習い事だったり。学校が基盤だと思いますが、真ん中に人が集まれるようなところがあると安心感があると思いますし、魅力あるということにつながってくると思います。中学校が真ん中にあると、小学

	校よりも地域の人とのコミュニティを広げやすいと思うので、中学校が真ん中という考えはすごくいいなと思います。
議長（委員長）	ありがとうございます。今日はいろいろご意見をお聞きしたいと思っています。委員 7 さんはいかがですか？
委員 7	今まで皆さんの話を聞いていて、自分の子どもの頃を振り返ると、委員 3 さんが言っていたように放送が鳴るまで学校で遊んでいました。帰ってくるときはもう 5 時 6 時で暗くなっていました。あの時代には育成会に入っていたので、区長さんや近所のおじさんおばさんも知っていましたし、声もかけられていました。今 2 区の育成会は小規模でも続けているのですが、他の区を見ると育成会がなくなっているところがあります。そうすると、区長さんが区の子どものことを分かっているのかと心配になります。うちの子たちは区長さんも近所のおじさんも知っています。中学生の娘は学校に行くときに「〇〇さんに挨拶された」と言うので、「当たり前だろう。知っているんだからいいじゃん」という話をするのですが、これが今希薄なのかなと思います。地域住民と家庭の関係が希薄だと思うので、学校とも希薄なのかなと思います。だから学校側の行事、最近だと園のバザーでボランティアが集まらないのです。これは園が悪い、学校が悪い、地域が悪いのではなくて、園や学校に意識が向いていない家庭が増えているのではないかと思います。そういう家庭は地域にも意識が向いていないのかと思います。「私の家はいいです」という家庭や区費も払わない家庭があると聞きます。そうするとどうしたらいいのか、私の中ではお手上げです。やはりコミュニティは基本なので、そこをできる範囲で大事にしていけばいいのかなと思います。
議長（委員長）	今、委員 7 さんから「区長さんは区の子どもを分かっているのか」という話がありましたけれど、委員 8 さんはその話を受けて何がご意見はありますか。
委員 8	区に住んでいる人という意味ではなくて、区で会費をもらっている方の子どもさんはつかんでいます。ただ、区に入っていないアパート等に住んでいる子どもは把握しきれていません。話が戻りますけれど、大間々の地図を見たときに、この中心の位置が町の中心ではありません。1 丁目、2 丁目、3 丁目というように北の範囲に近づくに従って住民が少なくなっています。資料に 1 区から 17 区までの人口の増減があります。私は 3 区で、古い町でいえば中心に近い方ですが、現在は過疎化しています。大間々には、400 年近く続いている大間々祭りがあります。今年は 397 回目で、3 区はその当番町ということで、祭りを仕切る役目を負わされています。そういう歴史の流れの中で見ると、今大南小があるところが 7 丁目ですが、昔は 6 丁目までしかありませんでした。江戸時代からの流れで、1, 2, 3 丁目が上三丁、4, 5, 6 丁目が下三丁と呼ばれていました。ここが町の中心だったのですが、どんどん過疎化していつて、現在はその周辺、例えば 9 区から新里寄りの範囲の住居数の方が多くなっています。8 区や 13 区も周辺になりますけれど、もっと多いです。ところが、大間々祭りには入っていないのです。1 丁目から 7 丁目までが主催する祭りな

	ので。お祭りという老人も子どもも共通して楽しめる、人間性をつくる思い出づくりの場としては非常に重要なものがだんだん廃れてきてしまったように感じます。それと同じような形で人口減があって教育のシステムが乱れて、家庭や学校の問題につながっているような気がします。3区では、幼稚園から小学校中学校高校まで、お祭りのときには協力してくださいという話を持っています。そして、協力していただいています。大間々祭り実行委員会は各区の取りまとめをしてはいますが、人員や資金確保については区の中で行うように言われています。ただ、大南小地区の人口は減っていますから、残念ながら大間々の繁華街であった5区、6区がお祭りをやりきれない、人員が動員できないという状況に近づいています。そういう意味で、中学校がバランスよく中心の位置にできることによって、時代がもう少し動いて、大間々祭りは大間々全体の祭りだという流れになったときには、大間々の小中学校を皆で応援しましょう、地域と学校と家庭が連携しましょうというように、全体的に統合されていくと思います。
議長（委員長）	今、学校をどうするかという話から地域の話が出てきました。区の話やPTAの話がありましたが、学校長から見ていかがでしょうか。学校配置について、大間々の中心地に中学校をというようなイメージが出てきていますが。大南小の実情を踏まえ、大間々に学校を造るとしたときの展望、あるいは地域からの声を踏まえて、ご自身がどう考えているかお願いしたいと思います。
委員 9	大南小のところに中核となるような中学校ができたらというイメージで話が進んでいるかなと聞いてみたけれど、大南小の地区はすごくいい地区で、コミュニティスクールを進めている中で、地域の方のご協力、学校を思う気持ちについて普段から強く感じていて、非常に助けてもらいながら学校運営や学校経営を進めています。もしこの素晴らしい地区にそういう学校が仮にできたとしたら、大間々の中心でもあるし、学校や地域を思う心を持った方がたくさんいらっしゃるので、大間々の活性化につながっていくチャンスになる、夢のある話だなと思いました。私は今大南小に勤めていて、今の話だと大南小がなくなることになるわけでそれは寂しいことですが、1つ期待を持てるというか、希望を持てるような話でもあるのかなと思いました。
議長（委員長）	中学校の方からもお願いします。
委員 10	配置という部分に関して言うと、私も大南小のところに中学校が1つになって小学校が2つになる案がよいかと思います。大東中は大南小と大東小から児童が来ています。大南小は進学先が2つに分かれている現状で、本校には今年は1年生が6人しか来ていないので、2クラスのそれぞれに3人ずつ配置している状況です。大多数が大東小の子たちなので大南小の子たちは不安だったと思いますが、すぐに友だちもできて、学校に行きたくないという声もなく元気に来てくれているのですごくほっとしています。ただ、やはり分かれてしまうということに関しては、子どもたちに大きな精神的負担や不安を与えている部分もあると思うので、それぞれ進学する場所が1つに決まり、同じ学校から皆

	で行くという形がいいのかなと思います。それから、学校運営協議会の話ですが、先ほどまでの話を聞か中で、地域の方が学校を思って、どんな学校にしていきたいのか、どんな生徒を育てたいのかということが重要だという話もあったかと思いますが、本校の学校運営協議会の委員さんたちも、今年第1回委員会を行った際にどんな生徒に育てたいか意見を出し合いました。その中で一番多かったのは、大間々を愛する子どもたちということでした。また、大東中の生徒たちに大間々についてどんなことを学んでほしいか意見をいただく中でも、大間々の地域のことを学んでほしいということでした。例えば校歌で歌われている「要害山」や「手振山」といった地域の自然に関して、おそらく子どもたちはどの山か知らないと思います。行ったことがない子も多いと思います。ぜひ校歌で歌われているような山について、例えば皆で行ってみるとか、山の歴史について地域の方から教えてもらうとか、大間々には魅力的な情報や教育資源があるので、それらをうまく活かしていけるとよいと思います。もししたら卒業後一旦東京等に行くかもしれないけれど、また戻ってきて大間々を支える人間をつくっていききたいというような意見をいただきました。学校運営協議会の委員さんには大変お世話になっておりまして、大東中は徒歩通学で昨年度はおかげさまで交通事故は1件もなかったのですが、不審者関係が少し心配だという保護者の声がありまして、そういったところで地域の方の力をお借りできないかと学校運営協議会で相談したところ、ボランティアを募って見守り隊をつくろうということで、今年から動き出しています。学校の事情や課題を踏まえて意見を出してそれを実現するパワーがある、そんな方たちに恵まれて非常にありがたいなと思っています。今学校の方でも教育課程、特に総合的な学習の時間の内容について、各学年でしっかりと地域学習を学校行事と絡めながら入れていこうということで検討を進めているところです。学校の現状については以上です。
委員 3	「大間々の歴史」という漫画をご存知ですか。学校の図書室にありますよね。読ませていますか。
委員 1 0	授業の中で扱ってはいません。
委員 3	あれはまさに地域学習ですよ。それともう1つ。桐生みどり防犯協会というものがあります。桐生市長が会長でみどり市長が副会長、我々区長が理事で入っています。その中で、防犯カメラを設置してほしいと要望しました。そうしたら、家庭の防犯カメラの設置の補助金を出し始めたのですがそうではないのです。地域と警察と行政が連携して、危険箇所や防犯上重要なポイント防犯カメラを付けてほしいと思っているのですが、学校側からも警察等に働きかけてくれるとありがたいと思います。防犯カメラという24時間監視のいいロボットがあるわけですからこれをうまく進めていこうという話です。
議長（委員長）	まだ委員 1 1 さんからご発言いただけていません。大間々出身でいろいろ見ていただけていますのでご発言いただきたいと思います。
委員 1 1	今日は自分の故郷でこれからの学校の在り方について熱い議論が行われている

	ることにすごくうれしく思いながら話を聞いていました。実は私、今年の夏は3区の住民としてお祭りに参加させていただきますので頑張ろうと思っています。そんな住民の立場としてまず意見を申し上げますと、委員1さんがおっしゃっていた意見に私も賛成です。やはり中学生を地域で支えていくというコンセプトはとてもいいなと思います。13歳から15歳くらいまでの多感な時期に関わった記憶は必ずその後成長した上で熟成されて本物の経験になっていて、その人の人格形成に大きな影響を与えます。大間々から外に出ることはあるかもしれませんが、必ず故郷を大切に思うという大きな経験になると思うので、中学生時代にそういう経験ができる学校の環境を作るとするのはとてもよいと思います。なので、お示しいただいた案で言えば、私も1番がよいと個人の意見としては思います。ここから先は立場上文科省の職員をやっていますので、制度的な話を少しさせてください。今日は学校運営協議会、コミュニティスクールの話が出ましたので、少しでも専門的な話で整理させていただきます。一応公式な定義で言うと、学校運営協議会を設置している学校のことを「コミュニティスクール」と通称するようにしています。学校運営協議会とは、委員長からもありましたように、学校に置かれている会議体です。これは、法律に基づいておかれる会議体で、権限を持っています。学校の校長先生がお示しになる経営の方針等を承認する等の学校運営に参画する権限を持っている会議体になります。ただ、会議体なのでやはり形なのです。全国的に設置は進んでいるものの、委員長からもあったように近年形骸化しているという課題が指摘されていると言われていますが、それは会議体だからです。会議だけだと形式になってしまいます。そこで大切なのが、今日の大きなポイントになるかと思いますが、地域の方がどう学校を支えるか、それをどうシステムの中に盛り込んでいくのかということです。ぜひ覚えて帰っていただきたいことなのですが、地域学校協働活動ということを必ずセットにしてくださいということ文科省はお願いしています。先ほども話がありましたけれど、校内の整備や草むしりといった活動もありますし、見回りもあります。さらに、放課後の学習指導の支援や部活動の支援、教育活動の中にまで地域の方々が入っていく活動を総称して地域学校協働活動と称しています。これについては国の方からも公的な支援をしていますので、教育委員会の方には仕事を増やしてしまうかもしれませんが、地域学校協働活動と学校運営協議会を必ずセットにして一体的に推進してくださいと打ち出しています。なので、もし新しい学校を整備するに当たっては、体制としてコミュニティスクールということ进行全面に出しながら、地域学校協働活動もしっかりと位置付けて、地域の支えを得ながら学校運営を進めていただけると、より未来につながる持続可能な学校づくりになるのではないかと感じました。
議長（委員長）	ありがとうございました。1つ言えることとしては、基本方針で案が出ていましたが、今日の話では小学校はどうするのかという話にまではなりませんでしたが、大間々の中心地に中学校を1つ置くという方向性は、皆様のご意見の中から確認されたのではないかと思います。適正規模・適正配置につきまし

	ては、次回はそこをこのところを出発点にしながら話を深めていきたいと思います。もう1つ、協議事項としては給食のことがありますので、そちらに移りたいと思います。
--	--

(2) 給食提供方式について

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
議長（委員長）	配布資料のNo.1 にありましたが、大間々につきましてはもうすでに大間々学校給食センターがあって、そこから給食が提供されています。これは第3回のところでも検討しましたが、そこでは現状の方向性でよいという意見と、栄養教諭や学校栄養職員の人的配置が少し薄くなる部分を何とかする必要があるのではないかという意見、そしてその上で給食センター方式を維持、あるいは深めていくという形になっていました。ここにつきましては、この方向でよろしいでしょうか。この委員会ではセンター方式をより充実させる方向で考えていくということにしたいと思いますが、ご意見はございますか。
委員3	いいと思うのですが、③についてはそれをクリアする対策を入れておく必要があると思います。こういう問題があるのであれば、こうすればクリアできるということを付記する必要があると思います。その前提で給食センター方式については賛成です。
議長（委員長）	委員3さんからご指摘いただいた部分につきましては第5回でも少し触れるようにしたいと思います。それでは、本日予定されていた事項につきましては以上になります。

6 諸連絡

第5回委員会 日時 令和8年9月下旬～10月の期間で開催予定 19:00～

会場 大間々庁舎 3階 大会議室

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
委員3	中学校は1つでよかろうという方向だけれども、第5回でも審議しますよね。データに基づいて、人口の分布を見てやはりここだな、1校だなと。データに基づいた決断をするということでもいいですね。
議長（委員長）	どういうデータを出せるかというところはありますけれども、その辺りの議論が中心になると思います。
委員3	今日はデータを少し見ただけでまだ分かりませんから。
委員2	僕も忘れてしまうので、言えることは言っておきたいと思います。大南小の例が1つの例だと思うのですが、人数が少ないから当事者意識を持つということは人間の本質だと思います。もちろん校長先生の運営にもよるのでしょうけど、やはり少なくなってきたから一人ひとりがちゃんとやらないとと思って当事者意識を持っているのだと思います。なので、大間々の中で中学校が1

	校になった途端に、人数が増えるので一人ひとりの当事者意識が薄まると思います。だから、地域と協働していく学校の運営は難易度は絶対に上がると思います。なので、そこに対しての対策はしなければいけないということを頭の片隅に置いておかないといけないと思います。何が言いたいかというと、笠懸の時にも思ったし、みどり市全体の時にも言ったのですが、決まった形を正解にする不断的の努力を続けていくということを答申に入れることが一番大事だと思っています。議論して決まったとしても、決まった後に何を対策して何をやっていくのか、その部分の方が大事だと思います。そこさえ努力していけば笠懸の学校問題で地域住民から文句が出ることはなかったと思います。造ってしまったから終わりとなってしまったから、あとから言われてしまうわけです。それでもずっと不断的の努力を続けていく様が見えていたらこんなことにはなかったのではないかと思います。例えばさっきの委員 1 1 さんの話で言うと、地域学校協働活動をするための教室をあらかじめ学校を造るときに建てるとか、そういう部分をしっかりケアしておくとうまくいくのではないかと思います。
委員 1 1	一言付言すると、人件費なんです。コーディネーターを雇う人件費が捻出できるかどうかは鍵ですね。
委員 3	結論ありきに流されてしまう、それが問題ですよ。
議長（委員長）	それらのことも含めて次回はもっと議論したいと思います。

7 閉会